



今井小だより

第3号

令和3年

5月31日

青梅市立今井小学校



今井小HP
校長ブログ毎日更新中

学校と保護者のパートナーシップ

校長 神尾 健彦

緊急事態宣言再延長を受けての運動会実施方法における校長の判断につきましては二転三転してしまい、保護者の皆様にはたいへんご心配とご迷惑をおかけしたと、申し訳ございませんでした。職員に対しても変更、変更でかなりの負担をかけてしまいました。その中でも、本校職員は、子供ファーストで思い出に残る行事を実施するために様々な方法を考えアイデアを出し合い、感染防止の対策・熱中症防止の対策・価値ある教育活動の実施に向けて全力を尽くしています。職員に助けられ、保護者の皆様にも各家庭1名という制限はありますが、子供の頑張りを見ていただく機会を設けることができました。ご理解ご協力ありがとうございます。

さて、近年、価値観の多様化・変化なのか、または世代の特徴なのか、学校と保護者とのトラブルがマスコミ等で話題に上がることがあります。大多数の保護者は、教師を信頼し、自らも共に子供の教育にあたる姿勢で教育活動にご協力いただいています。ただ、中には学校教育は教育サービスの一環であり学校は保護者の願いを最大限かなえるべきだとの主張をもつ保護者もいるかもしれません。また一方で、「先生に何か言うと、子供に影響があるかもしれない。」と心配をする保護者もいるかもしれません。課題や問題のないことがもちろん理想ではありますが、何も問題がおこらないということは、そうあることではありません。そうすると課題や問題を「いかに共に解決していけるか」が何よりも大切なことになってきます。学校と保護者との真のパートナーシップの基本は、対等に「信頼・責任」をもち合うことです。両者が互いの考えを理解し、特性を生かし合い、立場を認め合いながら相手の視点に立って問題や課題に立ち向かうことが必要です。学校も保護者も自分の利だけを通そうとしてはよい関係づくりはできません。

学校は、学力を身に付けさせるのみならず、人格形成を含め、社会で生き抜く力を育てる場でもあります。教師は、子供が保護者以外に深く関わりをもつ初めての大人でもあります。保護者が教師に対して、能力的にも人格的にも教育に対する姿勢でも尊敬でき信頼できる存在であることを求めるのも当然です。子供が教師への尊敬の念をもって初めて、学校教育が成り立つのであると考えます。そのため保護者が教師への不信・不満を子供に聞かせることは、教育の成果を低下させてしまうこととなります。教師は、子供一人一人を理解するとともに、集団や全体の関わりの中で様々な側面を見ている。教師は意欲と愛情をもち、損得を超えたところで人間教育に当たっています。子供の一生をも左右する役割を担っているという自負も責任も自覚しています。教師と保護者の両方の視点で、様々な角度から子供を見つめ、家庭でも学校でも同じように成長に必要なことを子供に伝えていく努力が大切です。

全ての保護者が子供を愛しています。そのため自分の子供に寄り添いすぎるあまり、自分の子供の話を信じてしまうことがあるかもしれません。子供が家庭で見せる顔と、学校で見せる外での集団の中の顔とが異なることがあるということに気付くのが難しい場合もあります。情報不足から学校への不信・不安をもちたり、支え合う保護者同士のつながりが薄かったりする場合はなおさらです。保護者が「つらい」「悲しい」「納得できない」と感じた際には、まず学校は「保護者がそう感じているという事実」を否定せずに、保護者の思いを受け止めていきます。そして、保護者が子供のために親として一生懸命であるということを前提にして、学校としての説明や話をさせていただきます。なによりも学校として「子供への理解を深め、その子のために真摯に取り組む姿勢と熱意を、保護者に言動で示すこと」を念頭に今後とも教育活動を進めてまいります。